

(10)九州



九州地域では、景気は緩やかに回復している。

- ・ 鉱工業生産は増加している。
- ・ 個人消費はやや弱含んでいる。
- ・ 雇用情勢は依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きが続いている。

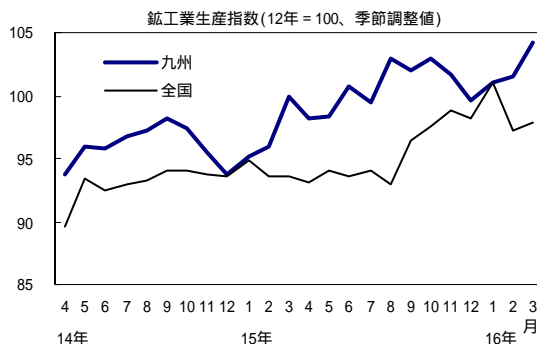
前回調査からの主要変更点

	前回（平成16年2月）	今回（平成16年5月）	
鉱工業生産	緩やかに増加	増加	
住宅建設	増加	減少	
雇用情勢	依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きが強まっている	依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きが続いている	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は増加している。

電子部品・デバイスは、自動車向けのICやデジタルカメラ向け映像デバイス、薄型テレビ向けのプラズマディスプレイパネル等が好調で、高水準の生産が続いているものの、2月にメモリ等が減少したことから全体で減少した。輸送機械は、海外向けSUVタイプの自動車の生産が好調であることから増加した。一般機械は、半導体製造装置の増加や船舶向けボイラー等の大型案件があったことから大幅に増加した。食料品・たばこは、このところのブームにより焼酎の生産が好調であることなどから増加した。化学は、ペットボトル原料の増加等により全体でも増加した。



(備考) 平成16年3月の九州は速報値。

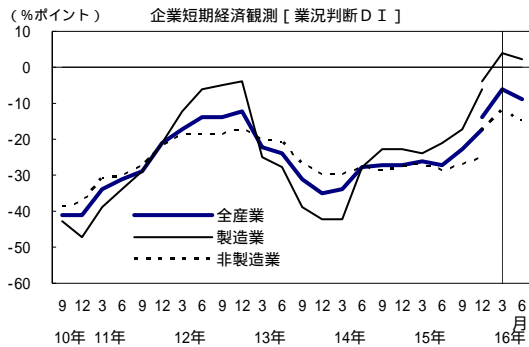
域内主要業種の動向(季節調整値、前期比増減率) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		10~12 月期	1~3 月期	1~3 月期	1~3 月期
電子部品・デバイス	14.9	2.9	2.5	4.6	4.9
輸送機械	11.7	3.7	1.4	4.0	59.7
一般機械	11.0	0.2	16.6	18.4	4.1
食料品・たばこ	10.8	0.1	3.4	1.4	16.3
化学	8.5	8.9	1.2	4.7	8.1
鉱工業	100.0	0.0	0.8	0.7	2.4

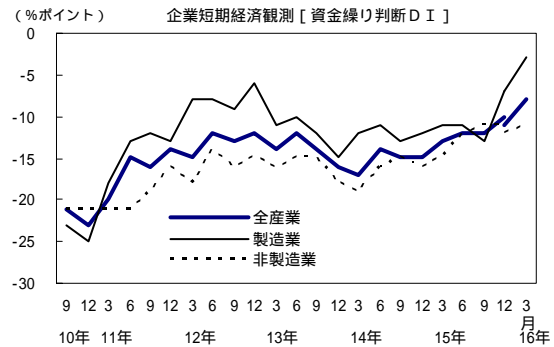
(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。

2. 1~3月期は速報値。

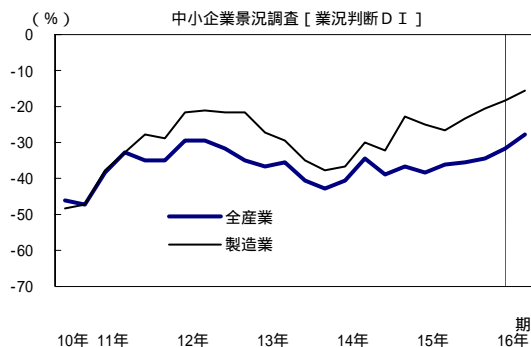
(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が、資金繰り判断は「苦しい」超幅がそれぞれ縮小している。
企業短期経済観測調査 [業況判断D I、資金繰り判断D I] 及び中小企業景況調査 [業況判断D I]



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。16年6月は予測。
なお、15年12月分については新・旧基準の値を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
なお、15年12月分については新・旧基準の値を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。16年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査 (4月調査) [企業動向関連 (現状判断)]

「原材料、副資材価格が高騰し、メーカーは製品価格を引き上げざるを得ない。値上げした価格が徐々に需要家に浸透している (鉄鋼業)」など、「やや良くなっている」とする回答が多くみられた。

(3) 15年度の設備投資は前年度を上回る見込みとなっている。

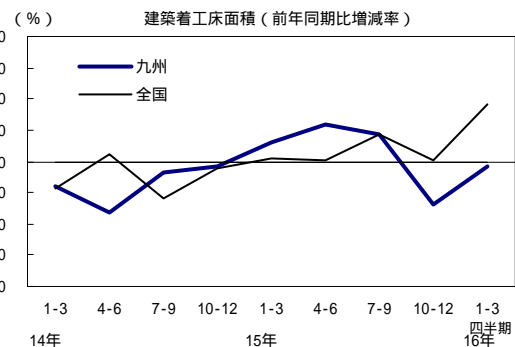
企業短期経済観測調査 [設備投資 (3月調査)]

(前年度比増減率、単位：%)

	15年度実績見込み	16年度見込み
全産業	8.4 (1.4)	3.2
製造業	19.4 (0.7)	28.6
非製造業	4.2 (1.7)	8.1

(備考) () は前回 (12月) 調査比修正率。

15年度実績見込み及び16年度計画ともに、調査見直し後の基準による。



2. 需要の動向

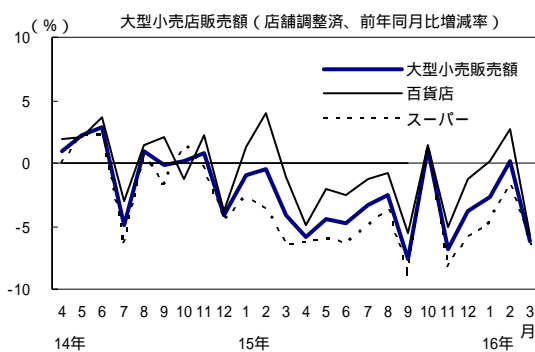
(1) 個人消費はやや弱含んでいる。

大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

百貨店は、1月は婦人服や紳士服など衣料品の動きが鈍かったが、初売りや閉店セール等の好調により、家庭用品等に動きがみられ、前年を上回った。2月はうるう年効果に加え、中旬以降気温が高めに推移したことや、閉店セールの好調から春物衣料や貴金属等に動きがみられ、2か月連続で前年を上回った。3月は、上旬に気温が低めに推移し、春物衣料を中心に動きが鈍かったことから、前年を下回った。なお、日本百貨店協会によると、九州・沖縄地区の4月の売上高は前年同月比で3.6%の減となっている。スーパーは、惣菜や加工食品など飲食料品の動きは良かったが、衣料品が振るわなかったことや売場面積縮小に伴い家電の売上が減少したことなどから前年を下回った。

景気ウォッチャー調査(4月調査)[家計動向関連D I (現状判断)]

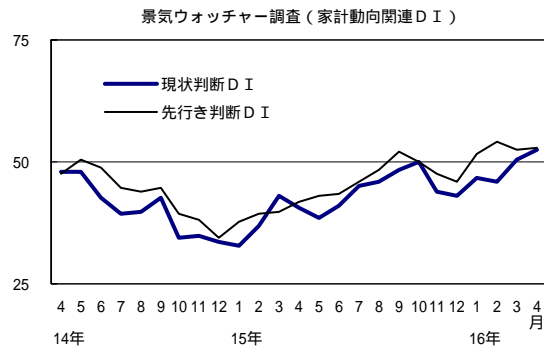
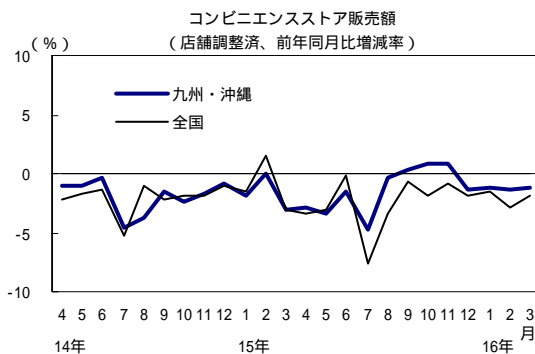
「消費税の総額表示導入により、特に食品において、値段が高いというイメージが広がった。競合店を始め総額表示で元の値段に合わせるという方針をとっている(スーパー)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



(前年同期比増減率、単位：%)

	15年4-6月	7-9月	10-12月	16年1-3月
大型小売店	5.0	4.4	3.3	3.1
百貨店	3.1	2.4	1.6	1.3
スーパー	6.3	5.8	4.6	4.4
コンビニ	2.6	1.6	0.0	1.2
景気ウォッチャー	40.0	46.5	45.6	47.6

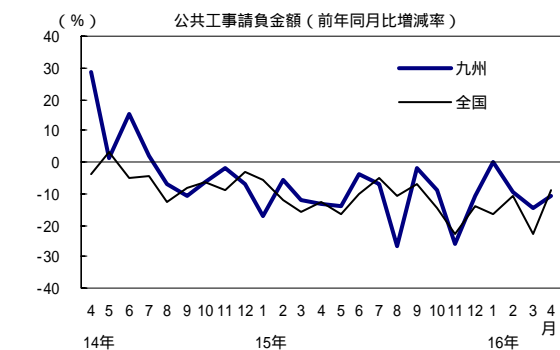
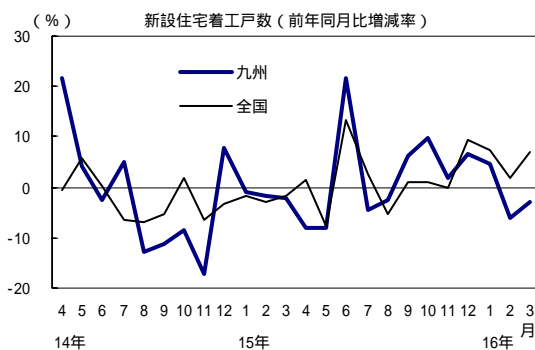
(備考) 1. 大型小売店及びコンビニ販売額は店舗調整済。九州・沖縄地区の値。
2. 景気ウォッチャー調査の数値は家計動向関連の現状判断D Iの3か月単純平均。



(2) 住宅建設は減少している。

持家が前年を上回ったものの、給与、分譲が前年を下回ったことから、全体では減少している。

(3) 公共投資は15年度累計で見ると前年度を下回っている。

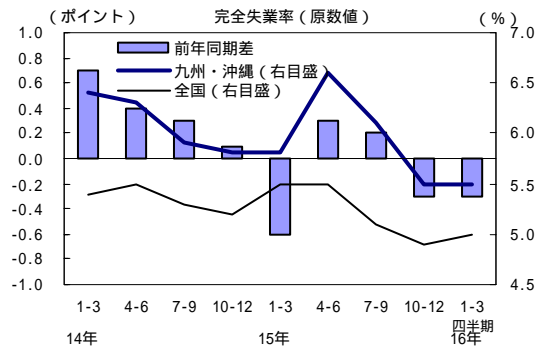
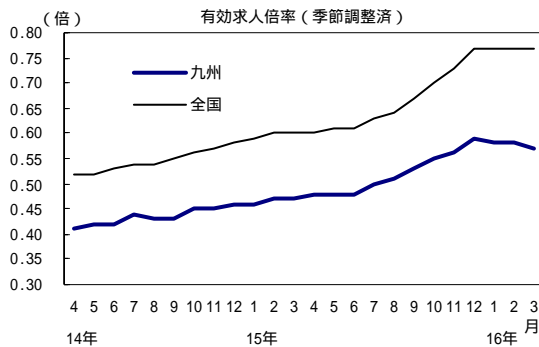


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きが続いている。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率はおおむね横ばいとなっている。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査(4月調査)[雇用関連(現状判断)]

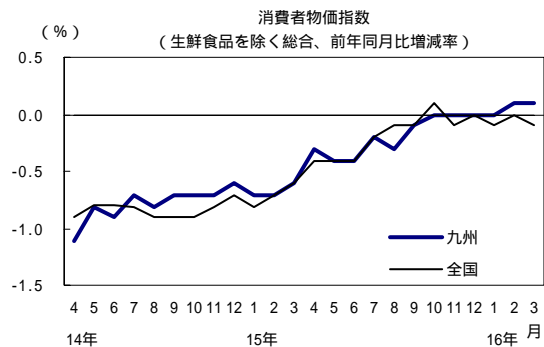
「正社員のみで派遣社員の受入に関心のなかった企業が、社員の補充に派遣を検討する等、派遣社員に関する問い合わせが前年比 20%ほど増加している(人材派遣会社)」など「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに減少している。

(3) 消費者物価指数はやや上昇している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	15年4-6月	7-9月	10-12月	16年1-3月	16年4月
倒産件数	375	363	335	300	98
(前年比)	11.1	9.7	20.8	15.0	27.4
負債総額	1,299	1,821	1,983	787	668
(前年比)	59.1	37.3	29.7	76.6	83.9



景気ウォッチャー調査(4月調査)[合計D I(特徴的な判断理由)]

<現状>

- 九州新幹線が開通し、来客数が1割程度伸びた。主に福岡、北九州、山口からの来場者が多くなり、上向きである(ゴルフ場)

<先行き>

- 今後もある程度の仕事量は確保できる。また、機械加工部門等、半導体関連以外も、まだまだ今の忙しさが続く。全体的には現状とあまり変わらない(電気機械器具製造業)

景気ウォッチャー調査(合計D I)

